



善頭エッセイ

はこだて旅便い

「今日もぷらぷら」

150



「秋の野営地で買物三昧」

文月 斉 (ふみつき さい)
 埼玉県出身。
 人と街、自然と文化を題材に、
 みちくさばかりの旅を続ける
 エッセイスト。
 函館、埼玉、大阪を拠点に
 旅を満喫中。

前略、変わりはないか？

猛暑日数日の最多記録を更新し続けた夏も、ようやく落ち着きを見せ始めたね。福岡県の大宰府辺りではこの夏に60回以上の猛暑日を観測したそうだけど、君の暮らす西の町でも同じように厳しい夏だったんじゃないかな。エアコンを使うことがほとんどなかった函館暮らしの僕としては、ちょっと心苦しい気もするな。先月上旬には明け方の気温が12〜13℃の日もあって、短時間だけ電気毛布をONにした。改めて日本は南北に長い国なんだなあって思ったよ。

旅ばかりしていた頃の癖なのか、夏が終わって気温が下がり始めると、いつも以上にテントをもつて旅に出たくなるんだ。涼しいし、煩わしい蚊やブヨも少なくなるし、キャンプ場もガラガラで貸しきり状態になるのも珍しくない。星空の下、スーパを温める焚き火を眺めていると、キャンプ場どころか地球を丸ごと借り切っているような気になるんだ。ちょっと大げさだけど、1万年前の縄文人と繋がった気分さえ味わえるよ。

ホテル泊だとあまりないけど、キャンプ場なんかで連泊していると、同じ境遇の旅人と話す機会があつてなかなか楽しいんだ。温泉やグルメ、テント場(テントを張る場所)など、現役の旅人ならではの生きた情報だから、かなり参考になるんだよね。先日利用した函館の東にある恵山海浜公園のキャンプ場でもそんなことがあつた。このキャンプ場は道の駅「なとわ:えさん」に隣接していることもあって、いろいろな旅人と話す機会があるんだ。昨年も、キャンピングカーで世界中を旅している英国人夫婦と遭遇して、片言ながらも楽しい旅話を30分近く聞かせてもらったっけ。

今回の情報源は日本人キャンパーだった。夕涼みをするテーブルの上で、淡い灯をともしりっくプスティック大の小さなランタンを使っていたんだ。あまり見ない灯りだったので何を使っているのかと訊いてみたところ、その道の駅の中のショップで見つけたとのこと。へえ、猟銃用の弾の薬きょうを利用した電池式のミニランタンか。なかなか買かけないなあ。さっそく購入しようと、施設内の売店「ナトワショップ・カフェ」に飛び込んだ。2年ほど前にリニューアルオープンした店で、僕も度々ソフトクリームを食べに訪れていたけど、こんな珍品が売られているとは知らなかった。看板娘のSちゃんに売り場を訊ねる。なるほど普段は素通りしていた店の一面に地元の方が作ったクラフト製品が並び、その中に色とりどりの空葉莢ランタンが並んでいた。いつから売られていたのだろうか。店長さんに話しかけると、首からぶら下がるペンダントにしっかりとランタンの姿が。なんだ、早く教えてよ店長さん！聞けば、猟師さんが実際に使用した散弾銃などの薬きょうを利用しているとのこと。赤、青、緑、紫：薬きょうの色にこんなに種類があるとは知らなかった。一度火を吹いているためか、ほどよくアンティーク感を出していて、そのまま飾ってもいい感じ。それなりに明るく、テントや車中泊で活躍しそうな明るさで、なんといつでも火を使ってもいい感じが。とくに、寝落ちすることが多くなった僕には安全でいい。どれにしようか迷った挙句、グリーン色のランタンをチョイス。レジに向った。いつものようにガゴメ昆布ソフトも一緒に注文しようと思ったところ、レジの横に新商品の昆布パフェを紹介するポップを発見。しかも数量限定となれば食べない手はない。果たして運ばれてきたパフェは、看板に偽りなし。抹茶ソースを海に漂う昆布に見立てたセンスといい、とろろ昆布で覆われた斬新さといい、まさに「ぼえる」逸品。しかも見事な昆布のマリアージュと美味しさに、あつという間に平らげてしまったよ。考案者は、店員でありながら店内のイラストやポップ、キャラクターデザインも担当するSちゃん。あふれる才能、恐れ入りました。どうだい、君も次の休みに来たらいい。「ほりほりこまい」など、お酒に合いそうなオリジナル商品もたくさん並んでるからさ。それじゃあまた。

さらに詳しくはWEBへ



法人会は会社経営の効率化のためにe-Taxの普及を支援しています。

イータックス

検索